



貿易投資相談ニュース

2023年2月 Vol.271



多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町 3-4
<https://www.tamashin.jp/>

今月の見出し

1. アジアの主要ニュース
2. 今月の注目チャート（ドバイ原油、鉄鉱石）
3. 貿易ワンポイントレッスン インコタームズ編
4. 企業インタビュー 株式会社 ON-ART
5. 世界を知る（シンガポール）



アジアの主要ニュース

上海港は13年連続で世界1位

上海港を運営する「上海国際港務（以下、SIPG）」によると、上海港の2022年のコンテナ取扱量が4,730万TEU（20フィートコンテナ換算）を超え、世界1位（13年連続）になったと発表した。2022年9月には17万TEUを超えるなど、1日の新記録を打ち立てた。さらに、SIPGは「トップハブ港、スマート・グリーン港湾、安全で強靱な港」の実現を促進

していくとした。また、上海洋山深水港フェーズ4における自動化コンテナターミナルが効率的かつ安全に運用されている点や、従来型のターミナルの「搬入の自動化・設備の遠隔操作・安全管理など」の更新が本格化している点について言及しており、今後も設備や研究開発体制を整えていくと発表した。

2023年の「世界10大リスク」にロシアと中国

米国の調査会社ユーラシア・グループは1月3日、2023年の「世界の10大リスク」を発表し、1位に「ならず者国家ロシア」、2位に「最大化する習権力」をあげた。2023年の最大リスクとして位置づけたロシアの動向について、欧米からの武器供与によりウクライナの防衛能力が高まり、「ロシアには軍事的に有効な選択肢が残されていない」と指摘。

プーチン大統領は米国と欧州に対して、核の脅威を利用した外交政策に出ると予測した。2位には、中国の習近平国家主席への権力集中が引き起こす混乱をあげた。22年に3期目に突入し、最高指導部を関係の深いメンバーで固めるため、異論を唱えるものがいなくなり、「大きな間違いを犯す可能性がある」と指摘した。

インド、自動車販売台数が世界3位に

インドでの国内自動車販売台数が過去最高を記録したとインド自動車工業会（以下、SIAM）が発表した。SIAMによると、乗用車は前年比約23%増加の約379万台、商用車は約38%増加の約93万台となり、合計販売台数は約472万台となった。日本の販売台数（約420万台）を上回る結果となり、中国と米国に次いで世界3位の市場規模となっている。

先進国が苦戦を強いられるなか急成長した。インドでは、日系メーカーのスズキ傘下マルチ・スズキが、乗用車市場で4割以上のシェアを有するものの、SUV（スポーツ用多目的車）市場の成長を背景に地場大手のマヒンドラ・アンド・マヒンドラ社などが新商品を打ち出し、売上を増加させている。

たましん公表外国為替相場

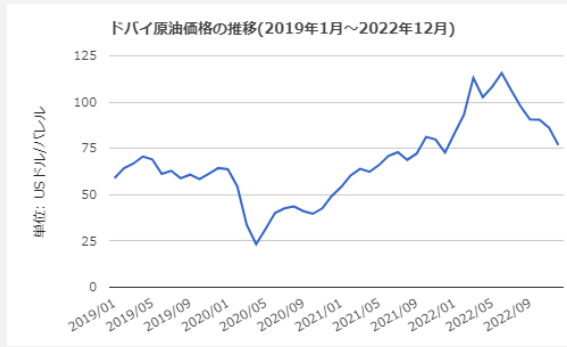
（2022年12月9日～2023年1月16日、TTSレート、単位：円）

日付	12/9	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/26	12/27
米ドル	137.95	137.76	138.83	136.49	136.48	138.73	137.22	135.54	132.78	133.29	133.77	133.33	134.24
ユーロ	145.99	145.26	146.77	145.62	146.13	147.96	145.84	143.32	141.45	141.80	142.09	141.95	143.22
日付	12/28	12/29	12/30	1/4	1/5	1/6	1/10	1/11	1/12	1/13	1/16	最安値	最高値
米ドル	134.94	135.16	133.70	132.01	133.16	134.74	132.85	133.40	132.99	130.28	128.92	128.92	138.83
ユーロ	143.77	143.97	143.00	139.83	141.92	142.24	142.90	143.71	143.57	141.78	140.20	139.83	147.96

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。（https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/）



今月の注目チャート① <ドバイ原油>



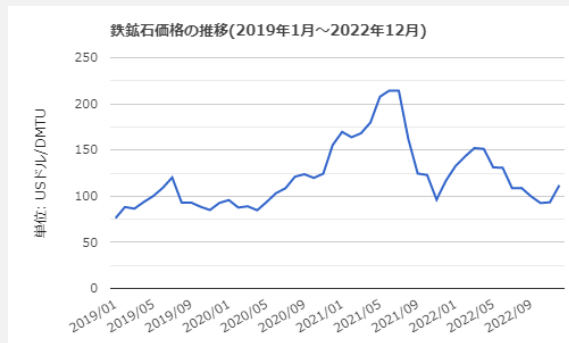
<出所：世界経済のネタ帳、World Bank - Commodity Markets>

「ドバイ原油」とは、アラブ首長国連邦を構成する首長国のひとつであるドバイで生産される石油。その価格は湾岸地域からの輸出価格およびアジア地域への輸入価格の基準となるベンチマークとして用いられている。

ロシアによるウクライナ侵攻の影響で上昇した原油価格も6月をピークに6か月連続で下落し、12月の平均価格は76.78USドルとなった。中国では新型コロナを封じ込める「ゼロコロナ」政策が事実上終わり、今後は経済再開と1月21日から中国で大型連休の春節（旧正月）が始まり、旅行や帰省などの需要が高まるのを踏まえ、需要回復期待は継続しそうだ。一方で、急激な方針転換は足元の感染急拡大も招いており、需要回復が遅れるとの見方もある。また、中国・インドを通じた割安なロシア産原油のアジア市場への流入で、中東産の需要が圧迫されている面もあるとみられる。

今月の注目チャート② <鉄鉱石>

鉄鉱石についても、ピーク時の2021年6月の214.43USドルから、2022年11月には93.34USドルと半分以下の水準まで下落したが、12月には111.84USドルまで上昇している。背景として、世界の鉄需要の半分を占めるともいわれる中国の経済再開期待があげられる。22年末から中国の鉄鋼企業で減産から増産に切り返す動きなどが始まっており、経済再開に伴い需要が回復するとの思惑が強まっている。



DMTU(ドライ・メトリック・トン・ユニット)は含有鉄分1%当たりの鉄鉱石価格

<出所：世界経済のネタ帳、World Bank - Commodity Markets>

貿易 ワンポイントレッスン-インコタームズ編①-

インコタームズ (International Commercial Terms) とは「貿易条件の解釈における国際的なルール (規則)」のことを指しており、輸出入 (貿易) の際に、「危険負担」「費用負担」を売主・買主のどちらが負担するかを決めたルールとなっている。今回は海上輸送で使用頻度の高い「**FOB**」「**CFR**」「**CIF**」について解説する。

<FOB (本船渡) /Free On Board>

FOB は、指定船積港で本船甲板に商品を置いた時点で、売主の引き渡し義務が完了したと見なされ、その時点から一切の危険負担・費用負担が買主に移転するという条件となっている。なお、FOB の場合、輸出通関手続きは売主側で行われる。

<CFR (運賃込) /Cost and Freight>

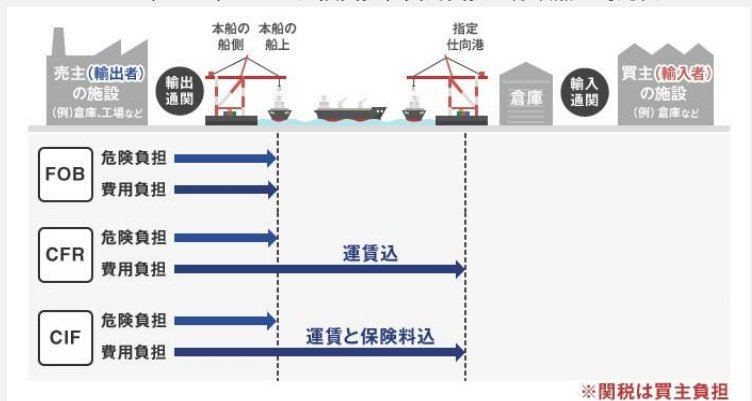
CFR は、売主からの商品の引き渡し場所、危険負担の範囲は FOB と同じだが、指定仕向港までの商品の運送費用は売主が負担するという条件。

<CIF (運賃保険料込) /Cost, Insurance and Freight>

CIF は、売主からの引き渡し場所、危険負担の範囲は FOB・CFR と同じだが、指定仕向港までの商品の運送費用と保険料を売主が負担するという条件。

上記規則は、現在主流となっているコンテナ船の海上輸送ではなく、コンテナでは対応できない多種多様な形状のものを輸送する「在来船」(岸壁から直接船舶へ積卸す従来型の船) を対象としている。コンテナ船輸送の場合、実際にコンテナをターミナルに置き、船に積むのは港湾業者や船会社が担っており、輸出者は本船の船側や船上への荷卸しに関与することはできない。そのため、同じ海上輸送でも、コンテナ輸送には適していないとされている。次回はコンテナ輸送に適したインコタームズについて解説する。

<FOB、CFR、CIF の危険負担、費用負担の分岐点の対比表>



海外展開インタビュー

株式会社 ON-ART 代表取締役 金丸 賀也

株式会社ON-ART（オンアート）は、2005年に設立。リアルな質感と動きの「恐竜型メカニカルスーツ（以下、恐竜スーツ）」によるライブショー「DINO-A-LIVE」を手掛ける。老若男女問わず支持されており、数多くの公演やメディアにも出演。人々に「自由と歓喜」を届けることをテーマに、全国各地で公演を行っている。

創業から現在に至るまで

金丸氏は、東京藝術大学デザイン科を卒業後、テレビ局の美術部に入社するが、ロックバンド活動に専念するため退社し、世界各地でライブを行うなどワールドワイドに活躍した。その後、デパートや博物館に飾られる背景画を制作するなど、学業を活かしデザイン・アート分野での活動も行うようになった。その中で、「どのようにすれば博物館にもっと人を呼び込めるだろうか」と考えるようになり、博物館に展示される恐竜骨格や恐竜映画から着想を得て、「博物館にリアルに動く恐竜があれば人を呼べる」と考え、自ら恐竜スーツの開発を進めた。

2005年に、恐竜スーツによる公演を事業化するため、同社を設立し、2007年に初の恐竜ショーを実現する。恐竜スーツは設計から組み立て、仕上げまで自社で手掛けており、骨格は軽量化や操作性を考慮しカーボンファイバーを採用している。国内外で特許を有する恐竜スーツは、トレーニングを積んだパイロットが操縦し、よりリアルな動きを再現している。

2017年、渋谷ヒカリエで行われた「DINO SAFARI」をきっかけに、この事業の認知度は一気に向上し、TVなどのメディアに取り上げられ、オファーが増加した。ただ、創業当初から変わらず博物館での公演も行っており、恐竜を通して「生き物に興味を持ってもらう」という活動は変わることはない。

海外展開の状況について

この恐竜ショーは、人種・性別・言語を問わず、全世界で通用する事業だと金丸氏は考える。海外での初公演となった2018年のクウェート王立博物館のオープニングセレモニーは、国王をはじめとする各関係者から高い評価を得ることができた。実務的な面では、輸送方法や契約などにおいて一部苦労もあったが、当初想定よりもハードルは低かった。

「当社に限らず、日本の技術は世界に誇れる技術であり、他の企業もどんどん海外に挑戦して行ってほしい。」と語る。現在も、世界各国からオファーが来ており、当社の世界への挑戦は続く。



<金丸氏>

今後の展望について

まずは、恐竜スーツのラインナップをさらに増やしていく予定で、今は全長 13M 超のブラキオサウルスを制作中だ。また、海外公演にも積極的に行っていき、アメリカでの公演にも挑戦していきたい。それとともに公演内容の充実を図り、「DINO-A-LIVE」というブランドを確立し、「人々の記憶に残る公演をつくっていききたい。」と金丸氏は語る。今年も、順次全国各地で公演予定があり、今後の更なる躍進が期待される。



<ティラノサウルスとトリケラトプス>

会社概要

会社名：株式会社 ON-ART

代表取締役：金丸賀也

本社所在地：東京都東久留米市東本町 1-12 # 501

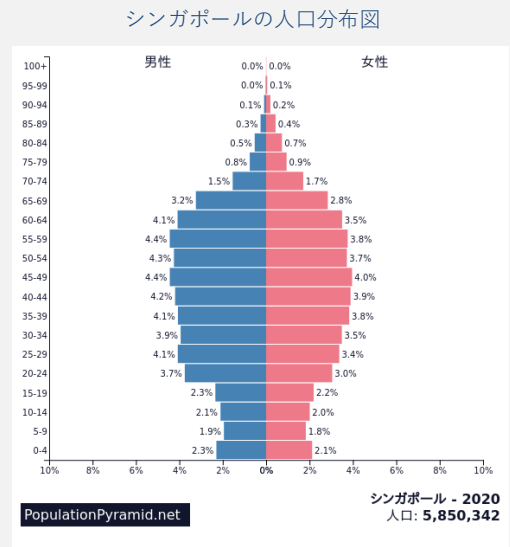
業種：リアリティ恐竜ショー企画・運営

インタビュー日：2023年1月19日

世界を知る～シンガポール共和国 The Republic of Singapore～



面積	728.3 平方キロメートル (東京 23 区をやや上回る規模)
人口	545 万人 (2021 年。人口には、国民、永住者、および長期滞在 (1 年超) の外国人が含まれる。)
宗教	仏教、イスラム教、ヒンズー教、道教、キリスト教他
民族構成	中国系 (74.3%)、マレー系 (13.5%)、インド系 (9.0%)、その他 (3.2%) (2020 年)
公用語	英語、中国語 (北京語)、マレー語、タミル語
一人当たりの名目 GDP	72,795 米ドル (2021 年) ※日本は 39,340 米ドル (2021 年)
ワーカー (一般工職) の月額給与	1,907 米ドル (2021 年) ※日本 (東京) は 2,434 米ドル (2021 年)



(出典: ジェトロ、PopulationPyramid.net)

シンガポールの食文化

国民の約 75%が中国系であることから、中華料理はもちろんのこと、マレー料理、インド料理、そして中国とマレー文化が融合して生まれたプラナカン (ニョニヤ) 料理など、食はバラエティーに富んでいる。ベジタリアン、またはハラールフード (イスラム教義に基づいた食材を調達、調理した食事) など宗教上の理由から豚肉や牛肉を禁じる食事があるものの、食に対するチャレンジ精神は旺盛だ。

外食文化

共稼ぎの一般化により、忙しい合間を縫って料理を作るより外食したほうが経済的だけでなく、精神的にも楽という声も聞かれ人によっては 1 日 3 食が外食というのも珍しくない。これはひとえに大衆屋台食堂 (ホーカーセンター) の存在が大きい。一方で、近年では衛生管理面や、涼しい場所で食べたいというニーズからフードコートも増加傾向にある。

食のトレンド

シンガポールは国土面積が小さく、農業・生産基盤が非常に限られていることから、国内で消費される食品の大半を世界各地から輸入してきた経緯がある。そのため、一般的に食品の輸出の際に課題となる関税や食品輸入規制といった参入障壁は相対的に低いとされている。

トレンドとしては、最近では、肥満や環境問題への意識の高まりとともに、人々の食に関する意識が非常に高まっており、シンガポール政府は「Healthier Choice Symbols」という 6 つのシンボルマークを作成し、ホーカーセンターのメニューやスーパーマーケットで販売される商品などでマークが導入されている。年中常夏のシンガポールでは、衛生管理の問題から生野菜を食べる習慣がなかったが、シンガポールの街中にはヘルシーなサラダを提供するお店が年々増えており、人気を得ている。また、代替食品市場が活況を迎えており、シンガポールのフードテック企業 ShioK Meats は、シンガポールと東南アジアで初の細胞農業企業で、細胞から甲殻類 (エビ、カニ、ロブスター) の肉の製造を開始した。



<ホーカーセンターの様子>



<ShioK Meats 社の培養肉製品>
引用: ShioK Meats

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

たましん海外展開情報メルマガ配信中

登録はこちらから→

